

"Full fathom five thy father lies; Of his bones are coral made; Those are pearls that were his eyes;."

William Shakespeare

「父は5尋(ひろ)海の底、その骨はいま白珊瑚、かつての2つの目は真珠」 ウィリアム・シェイクスピア

シェイクスピアの "The Tempest" ("テンペスト" (大あらし)) から、妖精のエアリエルの歌の一節です。この劇は、魔法の力であらしを起し、船を難破させて悪人をこらしめるという筋書きで、多くの妖精が活躍する現実離れた喜劇です。

ミラノの大公プロスペローは、もっぱら書齋に閉じこもって学問に没頭し、政務を弟のアントニオにゆだねていました。しかし、弟は次第に実権を狙うようになり、ナポリ王と結託して兄を追放しようと反乱軍を集めて城を襲い、当時まだ3歳にならなかった娘のミランダと共にプロスペローを小舟に乗せて沖に流しました。そのとき、親切なナポリの紳士が、食料や日用品やプロスペローの大切な魔法の書物などを用意してくれたのでした。舟は幸い、大海の孤島に漂着し、プロスペローは島の洞穴に住み、娘を教育して自分は魔法の勉強に励み、妖精を手足のように使うことができるようになりました。



それから12年が経ち、ミランダは美しい娘に成長しました。あるとき、かつて悪だくみをした弟のアントニオとナポリ王、及びナポリ王の息子のファーディナンドなどを乗せた船が、この島の沖を通ることになりました。そこでプロスペローは魔法の力であらしを起し、エアリエルに命じて船を難破させ、乗っていた人びとをこの島の岸に打ち上げさせたのでした。

1人だけ別のところに打ち上げられたファーディナンドは、父王はじめ他の者たちはみな海に沈んだと思っています。そこにエアリエルがやってきて、歌を歌います。表題の言葉はその歌の一部で、父王が海に沈んだことをほのめかします。この詩は英詩の中でも特に美しいとの定評があり、1行目の f の頭韻が軽やかなリズムを作り出しています。

父王をしのびながら歌に聞きほれているファーディナンドを、プロスペローは遠くからミランダに見せました。すると、父のほかに人間を見たことのないミランダは、その美しさにすっかり心を奪われてしまいます。ミランダに気づいたファーディナンドも、ひと目ぼれしてしまいました。この話の続きはまた次回。